携帯電話アダプタ(FOMA ケーブル接続)

取 扱 説 明 書

目次

1　セットアップ

1.1　接続

以下の順序で本アダプタ背面の各端子にケーブルを接続して下さい。

１）FOMA コネクタ(FOMA)に付属の FOMA ケーブルを差し込んでください。
　また、固定ネジ（2 カ所）を締めて下さい。

２）モジュラージャック(TEL)に固定電話を接続してください。

３）DC ジャック(DC12V)に付属の AC アダプタの DC プラグを差し込んで下さい。
　また、AC アダプタをコンセントに差し込んで下さい。

４）FOMA 携帯電話の電源をオンにした状態で FOMA ケーブルを FOMA 携帯電話に差し込んで下さい。

1.2　接続の確認

接続が完了したら、固定電話の受話器を上げてください。

１）FOMA 携帯電話の接続が完了していると、「ツー」と連続音が鳴ります。

２）FOMA 携帯電話の接続が完了していない場合には「プー・プー...」と高い音程の断続音が鳴ります。

また、接続時には FOMA 携帯電話の画面にハンズフリー接続のアイコンが表示されます。（アイコンについては携帯電話の取扱説明書を参照下さい)。

2　通常の使用方法

2.1　着信

携帯電話に着信があると接続した固定電話の呼び出し音鳴ります。
ナンバーディスプレイ対応の電話機を接続し、本アダプタのナンバーディスプレイ機能がオンに設定してあり（3.2 節参照)、発信元が番号通知を有効にしている場合、発信元の電話番号が表示されます。
受話器を上げると通話を開始します。受話器を置くと通話が終了します。

受話器を上げた状態で着信があった場合、受話器から「ブブブブ」という音が鳴ります。
この場合、一端受話器を置いて下さい。そして、固定電話の呼び出し音が鳴ってから、受話器を上げて通話を開始して下さい。

2.2　発信

固定電話受話器を上げて、受話器から「ツー」という音がするのを確認します。
（この際、「プー・プー...」という高い音程の断続音が聞こえたら、FOMA 携帯電話と接続できていません。

次に、固定電話で電話番号を入力します。しばらく経つと自動的に発信します。

同じ番号に連続して発信できない場合があります（携帯電話会社による発信制限)。2.5 節を参考にしてください。

また、携帯電話の操作により発信後、固定電話で通話することもできます（携帯機器の種類により出来ない場合やがあります)。
<u>固定電話の受話器を置いたまま</u>、携帯電話で発信操作をしてください。少し（1,2 秒）経ってから受話器を上げてください。受話器から発信中の音が聞こえ、以後は通常の発信と同じです。

2.3　FOMA 携帯電話の充電モードについて

FOMA 携帯電話は、本アダプタに接続されている間は充電されます。
ただし、充電中は通話音声にノイズが入る場合があるため、通話中には充電を停止します。
通話中に充電するかどうかは設定可能です。（3.7 節参照)。

2.4　FOMA 携帯電話の取り付けと取り外しについて

FOMA 携帯電話は電源を入れたまま、取り付け・取り外しが可能です。
取り付けるには、ロックが「カチッ」と音がするまで、FOMA コネクタをしっかりと奥まで差し込んで下さい。
取り外すには、FOMA コネクタの左右にあるロックボタンを押したまま、抜いて下さい。
取り付けた際には、受話器を上げて、「ツー」という連続発信音がすることを確認してください。

2.5　FOMA 携帯電話の発信規制と自動再起動について

同じ番号に続けて発信し、何らかの理由で相手が電話に出ないことが何度か続いた場合、一時的に FOMA 携帯電話からその電話番号に発信することができなくなります。(携帯電話会社による発信規制)。その場合は、受話器から「プー・プー...」という音が鳴ります。
この場合、しばらく（数分かかる場合もあります）間をおいて再度かけ直すか、FOMA 携帯電話の電源を一旦切ることが必要になります。
本アダプタでは、発信規制時に FOMA 携帯電話の電源を自動的にオフ・オンします。この機能の有効・無効は設定可能です。(3.6 節参照)。

自動再起動が働いた場合には以下のように反応します。
まず、同じ電話番号に何度かかけた場合、「トゥルルル...　トゥルルル」という発信中音が鳴らず「プー・プー...」という音が鳴ります。
そして、自動時に FOMA 携帯電話の電源が切れ、しばらく経過すると自動的に電源が入ります。
しばらくすると FOMA 携帯電話と接続され、受話器の音が「ツー」音に変わります。
この状態になってから、再度電話をかけてください。

3　モード設定

本アダプタには、各種設定項目があり、以下の手順で設定が可能です
各設定項目は、電源が切れても保存されます。

1）設定を開始するには、受話器を上げて「０００００」を入力します。(受話器を上げた時の発信音は「ツー」または「プー・プー...」のどちらでも構いません)。
2)「設定モードです。３桁の機能番号を入力して下さい」とアナウンスが流れるので、以下の通り、アナウンスに従って操作して下さい。アナウンスの途中でも入力可能です。
3）現在の設定値が読み上げられます。
4）アナウンスに従い３桁の機能番号を入力します。
5）アナウンスに従い、以下の表を参考に、指定の桁数の設定値を入力します。
6）設定に成功すると「設定しました」とアナウンスが流れます。
7）アナウンスに従い、再び２）から繰り返すか、設定が完了したら受話器を置いて下さい。
*）途中で設定を中断するには受話器を置いて下さい。

受話・送話音量の設定

機能番号	設定値	初期値	
111	0～9	4	受話音量を設定します。(0:最小，9:最大)
112	0～9	4	送話音量を設定します。(0:最小，9:最大)

3.1　ノイズ低減

<table>
<tr><th>機能番号</th><th>設定値</th><th>初期値</th><th></th></tr>
<tr><td>221</td><td>0～9</td><td>4</td><td rowspan="2">受話音声が無音のときの雑音を減らします。
221 の設定レベルより受話音声が小さい期間が 222 の設定値の期間（単位：0.01 秒）続くと、無音とみなしミュートします。
221 の設定値を大きくすると雑音が減りますが、自然な通話感が損なわれやすくなります。
222 の設定値が短いと通話中にミュートが切り替わり、雑音が入る場合があります。</td></tr>
<tr><td>222</td><td>001～999</td><td>050</td></tr>
<tr><td>223</td><td>0～9</td><td>0</td><td rowspan="2">送話音声が無音のときの雑音を減らします。
223 の設定レベルより送話音声が小さい期間が 224 の設定値の期間（単位：0.01 秒）続くと、無音とみなしミュートします。
223 の設定値を大きくすると雑音が減りますが、自然な通話感が損なわれやすくなります。
224 の設定値が短いと通話中にミュートが切り替わり、雑音が入る場合があります。</td></tr>
<tr><td>224</td><td>001～999</td><td>050</td></tr>
</table>

3.2　ナンバーディスプレイ

機能番号	設定値	初期値	
121	0,1	1	ナンバーディスプレイ機能の有効・無効を設定します。 ナンバーディスプレイ非対応の電話を接続した場合、通常と異なる呼び出し音が鳴り、受話器を上げてから通話開始まで時間がかかるため、「無効」に設定して下さい。 0:無効 1:有効

3.3　回線種別

機能番号	設定値	初期値	
122	1～3	1	以下の通り、回線種別を設定します 1:プッシュ回線またはダイヤル回線 20pps 2:ダイヤル回線 20pps またはプッシュ回線 3:ダイヤル回線 10pps またはプッシュ回線

3.4　ダイヤル待ち時間

機能番号	設定値	初期値	
123	0,1	0	ダイヤル終了から発信までの待ち時間を設定します。 お年寄りなどが使用する場合、1:長めに設定して下さい。 0:標準 1:長め

3.5　発着信許可

機能番号	設定値	初期値	
211	0～3	3	FOMA 携帯電話での発信・着信の許可・禁止を設定します。 0 発信禁止，着信禁止 1:発信許可，着信禁止 2:発信禁止，着信許可 3:発信許可，着信許可

3.6　発信規制時 携帯電話自動再起動

機能番号	設定値	初期値	
212	0,1	1	同じ番号に続けて発信し、相手が電話に出ないことが何度か続いた場合、FOMA 携帯電話から発信することができなくなります。その場合、この機能が有効になっていると、FOMA 携帯電話が自動的に再起動し、発信できる状態になります。 0:無効，1:有効

3.7　充電モード

機能番号	設定値	初期値	
213	0～3	1	FOMA 携帯電話を充電する条件を設定します。 充電中は通話音声にノイズが入る場合があるため、必要に応じてこの機能を設定して下さい。 0:常に充電しない 1:通話中には充電しない 2:通話中には充電しない。ただしバッテリーレベルが低下した時には充電する。(通話中以外は常に充電します)。 3:常に充電する

3.8　再起動

機能番号	設定値	初期値	
000	無し	無し	内部制御回路が再起動します。 携帯電話アダプタの動作に何らかの異常が生じた場合に使用して下さい。 各種設定値は消去されません。

3.9　設定初期化

機能番号	設定値	初期値	
999	無し	無し	携帯電話アダプタの各種設定値が工場出荷時の状態（各表の「初期値」）に初期化され、内部制御回路が再起動します。 携帯電話アダプタの動作に何らかの異常が生じた場合に使用して下さい。

3.10　バージョン番号確認

機能番号	設定値	初期値	
001	無し	無し	内部ソフトウェアのバージョン番号をアナウンスします。 ３桁の番号(x.xx)が、取扱説明書の最後に書いてある番号(ver.FOMA x.xx)に対応しています。 任意の数字を一桁入力するとアナウンスを終了します。

4　付録

4.1　仕様

電源	DC12V (AC アダプタより供給)
消費電力	待機時 1.5W 最大 6W (FOMA 充電時を含む)
本体寸法	120mm(W)×100mm(D)×39mm(H) 突起部含まず FOMA ケーブル接続時 160mm(D)
本体重量	約 150g
動作環境	温度　0℃～70℃ 湿度　30%～90%RH（結露なきこと）
接続可能内線電話数	１回線 プッシュホン電話機・ダイヤル電話機に対応 無電源タイプの電話機（黒電話や家庭用電話機）も使用可能
ナンバーディスプレイ	対応
接続可能携帯電話数	Docomo FOMA 携帯電話　１台
付属品	取扱説明書 AC アダプタ FOMA 接続ケーブル

2015 年 08 月　TTRMKR

ver.FOMA 1.00